

## 第4回みやき町総合計画策定審議会議事録（要旨）

### ○日時

令和4年9月22日（木）14：00～

### ○場所

中原庁舎2階研修室

### ○次第

#### 1 開会

（事務局）

審議会委員20名のうち17名の参加がある。みやき町総合計画審議会条例第6条第2項の規定を満たしており、本審議会が成立することを報告する。

（町長）

先週は大きな台風が通過し、合計で430人程度の避難者を受け入れた。この規模の避難者を受け入れる機会は少なく、様々な課題が出たため、これを活かし、災害に強いまちをつくっていかねばと改めて感じた。

現在、タウンミーティングを行っている中で、総合計画のターゲットは誰なのかと質問を受けた。町の総合的な施策を実施していくので、誰がターゲットかというものではないが、町の特徴が出た計画を作っていくということを話した。

今回は実行計画を審議会に提出しているが、事務局を含めて、様々な検討を行った。今回は外部の意見を賜り、総合計画を作っていきたいと思う。よろしく願いたい。

（事務局）

- ・当日配布資料確認

#### 2 会長挨拶

（会長）

これまで基本目標について検討してきた。今回から実行計画の検討に入り、各論に入るため、意見も多く出るだろうと思う。時間は限られており、会議中で意見を言い尽くせないこともあると思うので、書面でも意見を提出できるようにする。よろしく願いたい。

#### 3 議事

(1) 第3回総合計画審議会の審議内容について

(事務局)

・事務局説明

(委員 A)

総合計画の冊子はいただいているが、個別計画も配付するという話ではなかったか。

(会長)

計画のリスト一覧を、全員に配付されている。計画書自体は膨大な量になるため、配付する予定はないと思う。事務局それでよいか。

(事務局)

その通りだ。前回の会議で、「資料1」として関連する計画のリストを配付している。

(会長)

本日欠席している委員から、書面でコメントをいただいている。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

総合計画の中間見直し及び総括は、審議会委員で行うべきという意見をいただいた。

(会長)

総合計画には、PDCA や進捗管理を記載する。現状では記載がないため、事務局は検討をお願いしたい。

(事務局)

審議会委員の任期に関する条例の改正を進めており、毎年進捗管理を行っていく。また、指摘の点は、本文に入れたい。

(会長)

計画の体系は極めて重要で、このつくりで、各基本目標に関係する実行計画が並ぶ。施策の分野は、必ずしも一対一に対応するわけではなく、ほかの目標とも関係しているという前提で、この体系図は確認をお願いしたい。

(2) 第三次みやき町総合計画の実行計画（案）について

(事務局)

・事務局説明

## 【基本目標1「安全・安心に暮らせるまち」に関して】

(委員 B)

3 ページ、タイトルが防災・減災となっているが、減災の指標がない。被害件数・浸水面積などを指標にしてはどうか。

また、4 ページの3の主な取り組みにある国、県の要望の部分で、2点申し上げたい。北茂安校区の県道以北については県河川の改修計画があるので、遊水池を県に計画してほしい。水の流れを、時間をかけて流すというような、河川中流域への対策が必要だと思う。前川の流末問題は、県も対応を考えていると聞いている。通瀬川への接続は調整池等をつくって、ポンプで河川に排出するようしてほしい。

北茂安校区では、寒水川から東側の流域の水がほとんど江口地区に集まってくる。減災に向けては、下流域だけでは被害を軽減することはできず、中流域・上流域一体としての対策が必要である。表題を「3 治水対策の推進」を「3 減災に向けた対策の推進」としてはどうか。また、文言も、河川流域が一体となり減災に取り組むといった文言に変更してはどうか。検討をお願いします。

(事務局)

治水対策が必要という意見もあるため治水としていたが、減災という形で再度検討したい。また、中流域・上流域も対策必要という意見と指標についても担当課と協議して検討したい。

(会長)

成果指標として、浸水面積を減らすなどは難しいと思う。想定を超えるような水害が頻発するため、数値の設定は難しいと思うが、担当課で検討してもらいたい。関連して、田んぼダム・遊水池など流域治水の視点から総合的に取り組むといった文言を入れてほしい。

全体的な話だが、関連部署の後に、関連する計画（すでにある計画、今後関連する計画を作成）を入れてほしい。

なお、最新の地域防災計画はいつのものか。

(事務局)

現在改訂しているところだ。先ほどの意見も担当課に伝え、減災につなげていきたい。

(委員 C)

上流で貯めるという意見の追加で、下流での排水対策と関連するハード整備も入れてほしい。

(会長)

流水治水の中に排水も含まれるので、排水能力を高めるハード整備は当然入ってくる。その点も踏まえて修正をお願いしたい。また、防災教育が入っていないので、防災訓練だけではなく防災教

育も入れてほしい。

「(2) 暮らしの安全・安心」は、消費者保護の視点から消費者教育が非常に重要である。ネット犯罪や高齢者を狙った振り込め詐欺などもある。消費者教育も文言として入れてほしい。

#### 【基本目標2「楽しい子育て・あふれる人財のまち」について】

(委員D)

8ページの成果指標にファミリー・サポート・センター事業があるが、令和14年の目標値100%は必要なのか。依頼会員が100人いたら協力会員100人が必要ということかと思うが、一人につきっきりでサポートするわけではない。一対一が基本だが、一人が複数人預かることも可能である。現状でも十分に賄えているので、検討してもらいたい。

9ページの「ひとり親家庭等への支援」に第三の居場所の整備とあるが、必ずしもひとり親家庭の支援にだけに結びつくものではないと思う。第三の居場所づくりは貧困家庭の子どもやいろんな問題を抱えている子どもの居場所として、検討していると思う。第三の居場所は学習支援・生活支援・体験学習を行う。これは子育て全体に関わるので、16ページの「青少年健全育成の推進」の一つの項目として入れてほしい。

(事務局)

ファミリー・サポート・センター事業については、担当課に確認したい。第三の居場所の整備については、青少年健全育成にも入れたい。

(町長)

ファミリー・サポート・センターの現状として、預けたい方が預けられないケースはないのか。

(委員D)

預けられないケースはあまりない。社会福祉協議会の職員などが臨時で入ることもあるが、基本的には充足している。

(会長)

ファミリー・サポート・センターについては、大きな問題はないということか。

(委員D)

大きな問題はない。利用者が、100%満足しているかはわからないが。

(会長)

充足しているのであれば、事務局には別の指標を検討してもらいたい。

(委員 E)

成果指標がどの項目にもあるが、これだけでよいのか。施策や主な取り組みが書いてあるが、もう少し係数的に把握できるものにしてもらいたい。長期の計画なので、進捗管理の際にチェックがしづらい。検討する、推進するというのはわからない。

(会長)

言われる通りだが、全ての指標をあげると重点的な取り組みが見えない。主な取り組みに関して、関連部署は数値を検討している。これだけではなく、他の計画・施策も事務局は整理している。進捗状況管理については、あがっている成果指標以外に関連する指標データも出すことになる。事務局それでよいのか。

(事務局)

その通りだ。

(会長)

他の数値はしっかりと把握して、目標値をすべて定めるかは別だが、進捗管理を行う。

冒頭の町長挨拶で、誰をターゲットにしているのかとあったが、最大のターゲットは未来世代の子どもたちである。子どもの教育、健全育成は極めて重要だと思っている。15 ページの青少年健全育成地区活動の地区というのは自治会の単位のことか。

(事務局)

その通りだ。みやき町の行政区の数である。すべての行政区を対象として取り組む。

(委員 F)

障がい児の保育について、保育所では、障がい児に対する取り組みをしているのか。ファミリー・サポート・センターは学童保育のことか。住んでいる地区に、子どもを預かっているところがあるが、町と連携しているのか。また、保育所はほとんどが民間だ。保育所の施設整備や人材確保の推進という文言があるが、民間の保育所に任せる状況になっており、人材確保が一番問題である。取り組みとしてあげている以上、責任を持って連携し、取り組んでほしい。障がい児保育をどういう形でやっているのか、今後の課題として教えてほしい。

(事務局)

民間の保育園で受け入れが困難な子どもたちを風の子保育園で受け入れている。自宅の近くの施設というのは、放課後デイサービスのことか。

(委員 F)

事務局が把握できていないように、私も把握できていないので、連携はどうなっているのか、ど

のようにやっているか分からない。そういう施設が2年くらい前にできている。

(会長)

事務局には確認するようお願いしたい。

(町長)

保育所は、町営が風の子保育園、他は民間運営に移行している。発達障がいの子どもは風の子保育園に集まっていて、地域の受け皿となっており、町立保育園の存在意義として見出している。言われていたのは、放課後に児童を預かる民間施設だと思うが、積極的な連携が必要かどうかは検討が必要だ。民間は増えてきており、家庭のニーズを民間の方々が埋めてくれている状況なので、これから調査研究していかないといけない。

(委員 F)

定住対策については、子育て世代にみやき町に帰ってきてもらいたい。ひとり親家庭も増えており、子どもたちへの配慮など、町の対応は大事である。風の子保育園も2、3年内には民営化すると聞いたが、現状町営となっている。サポートセンターや障がい児保育、保育園の施設整備、先生の確保などは、町で統一基準を作り、民間のサポートセンターは町として把握しておくことが責任ある運営だと思う。

(委員 D)

ファミリー・サポート・センターは、共働き家庭やひとり親家庭で迎えに行けなくなった場合に、代わりに迎えに行き、子どもを見守るといった事業。地域での子どもの見守りは必要で、その一つとして町では第三の居場所というものを考えているが、民間やNPOなど地域で子どもを見守ろうという活動は今後増えていくと思う。町でそういった事業者と連携を取りながら実施する必要がある。預かる中で家庭の問題が見えてくると思うので、それを行政が把握し、次の支援につながる取り組みも必要ではないかと考える。

保育所は、以前は全部町立だったが、費用対効果から民間になっている。しかし、民間では受け入れがたい子どももおり、町として責任を持って受け入れるために、風の子保育園は町立のままとなった。町立と民間の役割が両立してこそ、みやき町の子育て支援ではないかと思う。

(会長)

佐賀県東部地区は転入者が多い。子育て世代も多く、子育てしやすいまちづくりは健幸長寿と並んでみやき町の一つの大きな柱になるべきだと思う。子育て支援に関する成果指標を出せないか。鳥栖市で市民協働の補助金制度の審査会長をしているが、子育てサークルが団体を作って活動したいと申請してくる。みやき町でもそういった活動を応援する制度を検討してほしい。支援とは人とお金であり、サポートセンターは人である。もう一つは町民活動を財政的にバックアップする視点が必要で、具体的な支援が明確になるような施策を立ててほしい。

(町長)

子育ての指標については最適なものに変更すべきだと思う。自治体で全てをまかなうことは財政的にもマンパワー的にも無理である。いい町をつくるには町民の力が必要だが、参画してもらうときに、役場との連携、金銭的支援などの手段が必要になってくるので練り直していきたい。

### 【基本目標3「健幸長寿のまち」について】

(委員 A)

18 ページ、「スポーツを活用したまちづくり」で、前町長が U15 の女性プロサッカー選手を育成すると提案した。「みやきなでしこクラブ」をみやき町の特徴だと進めてきたが、小さな町でプロ選手育成のための施策を展開していくのは無理ではと論議した。多目的グラウンドを整備で 14 億を提案しており、プロの指導者を招聘して指導するということが、無理があると思う。行政改革を進めていく中で、この範囲に含まれている事業が進めにくくなるのではと危惧している。よく検討してほしい。見解を伺いたいし、同意できない。

(会長)

極めて重要なテーマである。総合計画に盛り込むということは、町として積極的に取り組み、必要な経費を予算化するという話になるので、懸念しているという意見である。事務局はどうか。

(町長)

表現が、女子サッカーに特化した文章になりすぎていると感じている。女子サッカーについては、運営母体である一般社団法人を立ち上げ、運営に必要な自主財源を確保している。運営に関しては、一般財源を使用しない。みやき町の特徴あるスポーツを通じたまちづくりとして、スポーツ全般の底上げとともに、最初の形として女子サッカーが一つの柱になっていく。サガン鳥栖のような運営形態を目指すと説明しており、行政としては支援していくべきだと議会で議論した。前町長からの事業であり、チームはすでに立ち上がっていた。解散となれば、そのために引っ越してきた方々にどんな補償をしないといけないのか。町長が変わったからと子どもたちを切り捨てるのは、子育て支援のまちを宣言している町がやるべきことなのかと議員には申し伝えていた。指摘されていることは理解できるので、女子サッカーの表現のボリュームを下げて、スポーツ全体でまちづくりをするという表現ではどうか。

(委員 G)

健幸長寿のまちといいながら、1 項目にスポーツがきている。スポーツは単体で作ったほうがよいのではという印象をもつ。健康の項目にスポーツがあることはよい。順番を入れ替えるか項目を変えるかを考えた方がよい。

健幸長寿にも教育の項目を入れてもらいたい。医療職に就く人を輩出するというような目標があ

ってもよいと思う。医療関係経験者などから講演してもらおうと活気づいて良いのではないか。検討してもらいたい。

(会長)

健康とスポーツの並びを入れ替える。女子サッカーが前面に出ており、ハード面で大きい金額を計上している目立つ事業である。止められないのであれば、次のことを考える必要がある。サッカーとローカル・アイデンティティがどのように繋がっていくのかが見えないので、明確にする必要がある。経済的波及効果をシミュレーションする必要がある。部活動も地域移行しており、中学高校の部活も地域で支えていく動きがあるため、地域で人材が必要になってくる。女子サッカーを一つの突破口にして、みやき町のスポーツをいかに振興していくのか、そうした全体的な位置づけを検討し、記載を修正してもらいたい。

そもそも、女子サッカーに反対の意見もあるが、他の委員さんはどうか。

(委員 F)

女子サッカーは賛成である。男女平等になってきていて、価値観も多様化している。その中で何を中心軸として町の発展を目指すのかを考えると、スポーツしかないと思う。

(委員 E)

賛成だ。財政的に苦しいのは理解しているが、一般財政を使わないように努力していこうと言っているので賛成するしかない。

(委員 H)

総合計画は、全般の施策の方向性を決めるための内容であるので、これらのことについては議会で討論してほしい。

(会長)

審議会として、女子サッカーを核にしたスポーツのまちづくりを掲げるかどうかの意見をいただきたい。あくまでも、スポーツ振興によるまちづくりの一つの突破口として、女子サッカーを位置付ける。同時に多額の投資をしているとすれば、経済的な波及効果がどれくらい見込まれるか、人材育成につながるかも踏まえた上で進めていくと思う。そういう位置づけで表現を改める方針でいいか。

表現は変更し、健康、スポーツと並びを入れ替えることとする。

(委員 I)

23 ページ、地域福祉のところ、主な現状と課題で「民生委員が相談された場合は関係機関に繋ぐようになっていますが、地域交流が困難な世帯や～」とあるが、民生委員が繋いでいないような感じに取れる。記載の仕方を変えてほしい。



(事務局)

修正する。

(会長)

成果指標のボランティア団体とは、福祉活動のボランティア団体か。団体数は把握しているか。

(委員 I)

ボランティア連絡協議会には登録団体が 21 団体あり、620～630 人いる。

(会長)

21 団体のすべてが福祉に関係する団体なのか。福祉関係はそのうち何団体なのか。

(事務局)

ボランティア協議会の登録団体数だが、福祉関係の団体数は把握できておらず、調査が必要だ。

(委員 D)

福祉の目的が何かということではあるが、いろんな団体があるので、全体的に見て福祉の団体と言えないことはないかと思う。

(会長)

そのような位置付けで、670 人に増やすということによいのか。団体数を増やすことの方が重要な気がする。NPO も含めて 21 団体で十分なのか。団体メンバーも高齢化しているのではないか。

(委員 I)

高齢化しており、後継者問題が出てきている。連絡協議会も高齢者の活動となっており、一番の問題点である。

(委員 D)

次の世代への継続問題は、どこの団体でもあると思う。ボランティアは自主的に行うものなので、強制できない。自主的に入ってもらうために、養成講座を行っている。福祉教育やボランティア意識を醸成し、自然とボランティアに参加できるようなまちづくりが必要ではないかと思う。

(会長)

共助を担う中間支援組織を育てていくことが重要である。そういった視点で成果指標を考えてほしい。考える余地はあると思う。共助を担う組織をしっかりと作っていくことが市民協働なので検討してほしい。

(委員 D)

30 ページ、障がいのある人の自立支援と社会参加の促進のところ、保護者が亡くなった後も自立して暮らせる地域づくりを進めると書いてあるが、そのためには障がい者個人の権利擁護が必要ではないか。成年後見制度の利用促進もあげた方がよい。

(事務局)

追加したい。

(委員 E)

17 ページの成果指標でイベント参加者数・施設利用者数とあるが、これにグラウンドゴルフは入っているのか。

(事務局)

グラウンドゴルフは含まれている。

(会長)

31 ページ、一人当たりの医療費が高い原因を分析しているか。

(町長)

分析するために企業と連携を図っている。みやき町のプロジェクトチームで連携してアプローチする方法を考えていく。

(会長)

医療費が高い理由を分析した上で計画を立てていくことになるので、現状の分析を行いなどの文言を入れてほしい。

(委員 C)

27 ページ、いきいき百歳体操支援は、地区に金銭的な支援があるが、リーダーにはそれがない。地域の支援も必要だが、リーダー格への支援も入れてほしい。

(会長)

金銭的な支援を総合計画に盛り込むのは難しいが、関連する計画の中で事務局は検討してもらいたい。

**【基本目標 4 「暮らしを支える産業が伸びゆくまち」について】**

(委員 H)

33 ページの農業のところ、成果目標に組織化に関する成果指標を入れてほしい。組織化をして地域農業を支えていくことが必要だと考える。

(会長)

基本施策の中に集落営農組織の法人化を掲げてほしいという意見だ。

(委員 H)

集落営農だけではなく、それを含めた法人化だ。地域全体で組織を作っていないと農業ができない状況になる。

(会長)

34 ページの一番上に「集落営農組織の育成強化・法人化の推進」という項目があるが、集落営農組織に限らず、地域全体で経営力を高める組織づくりのような文言追加が可能であれば検討してほしい。複数の集落営農組織が大型化・合併する動きも見られる。組織強化という視点である。

(委員 J)

農業委員会の人・農地プランの作成を進めている。現在、遊休農地が発生し、鳥獣被害が多く、解決に向けた取り組みを行っている。遊休農地の解消を進めていきたいと思っているのでご協力お願いしたい。猪や猿も出没し、人に危害を与えている。

(会長)

34 ページ、「3 農業生産基盤の整備・拡充」のところに獣害対策の充実を追加してもらいたい。みやき町は獣害対策の取り組みはどのようなことをしているのか。

(委員 J)

猟友会への委託やワイヤーの侵入防止など。しかし、すべてを防止することができない。

(会長)

どこでも同じような課題を持っているので、県と連携しながら、獣害対策を今以上に充実させることを盛り込んでもらいたい。

(委員 J)

農業生産基盤の整備・拡充について、農道の補修、水路の草刈りなど、高齢化しているので困難になっている。補助・援助に取り組んでもらいたい。

また、排水路が老朽化し、目地から水漏れしているため、パイプラインに変えてもらいたい。土地改良区の施設の維持管理には力を入れていただきたい。

(会長)

住民だけでは支えきれなくなっている。県では、企業ボランティアに入ってもらい、草刈り等の活動をしてもらっている。棚田地域と中山間地域に限定されるが、様々な取り組みがあるので、どんな取り組みがあるかを地元の説明してもらいたい。

(委員 E)

36 ページ、成果指標の進出企業とは何を指しているのか。

(事務局)

進出企業については、誘致した企業数のことだ。

(会長)

大規模工場等の用地はどうなっているか。余裕があるのか。企業誘致を図るにしても土地そのものはあるのか。

(事務局)

工業団地は完売している。新たな工業団地を整備する必要があるということで公共的調査を実施、工業団地の開発ということを 37 ページに記載している。

(会長)

進出企業数の目標を達成するためには、用地造成等も伴って計画を進めていくことになる。工場だけでなくオフィスも含めての進出企業だが、工場用地の余裕がないと誘致活動もできないので、見通しをしっかりと持つ必要があると思う。

観光のところで情報発信があるが、役場の公式 SNS はあるのか。こういう部門こそ、協力隊員や民間の力をうまく活用した方がいいと思う。DX 含めて情報発信は、民間活力を活用する施策戦略をお願いしたい。

#### 【基本目標 5 「心豊かで多様性のあるまち」に関して】

(会長)

47 ページ、男女共同参画で審議会における女性委員の割合を 30% まで増やすとあるが、本審議会の女性割合は 10% である。見通しは大丈夫か、何か戦略はあるのか。共助を担う中間支援組織には、行政に参画したい人が多いはずである。そういう団体を育成していくことをセットで考えないと、上手くいかないと思う。専門性があって、会議で発言できる人を行政は求めていると思う。そのため戦略として、中間支援組織の育成は重要な課題なので検討をお願いしたい。

ところで、在住外国人はどれくらいいるか。

(町長)

231 人いる。ほとんどは技能実習生である。

(会長)

地域で軋轢が起きている等の問題はあるか。

(町長)

問題が起こっていることは報告を受けている。ごみの出し方の優しい日本語でのパンフレット作成、日本で生活するための知恵などを多言語版で作成するように指示した。

(会長)

外国人との交流会が必要だと思う。日常的に交流する機会を設けることが日本語の習得にも貢献し、外国人に対する住民の理解の促進にもつながる。外国人との交流機会を検討してほしい。メディカルコミュニティセンターと一緒に健康教室するなど、やり方はいろいろある。コロナが落ち着けば、在留外国人もまた増えるので検討してもらいたい。

(委員 E)

42 ページのところ、「町重要無形民俗文化財の登録数」の 2 件は、何を指しているのか。

(事務局)

町では綾部神社と宇佐八幡神社の浮立を登録している。

#### 【基本目標 6 「活力にあふれた多様な交流がうまれるまち」】

(委員 H)

51 ページ、成果指標のタウンミーティングの目標値が 100 回となっているが、計算上 2～3 日に 1 回の開催となる。もうちょっと検討した方がよいと思う。

(事務局)

令和 14 年度までの 10 年間で、延べの開催数を目標値としており、1 年単位での目標ではない。記載方法を修正する。

(委員 K)

町民祭はどうなっているのか。町民祭は盛り上がると思うので、女子サッカーの宣伝もできるのではないか。

(町長)

イベントは、現在減少傾向だが、今後は増加していくと思う。町民祭の代わりに月一回のメディカルコミュニティセンターでのマルシェを行っており、年二回ほど大々的に行う計画で予算を振り替えている。マルシェのときにはサッカー教室を行っている。

(会長)

前回の会議で公共交通が重要という意見があった。これに関して、56 ページにあげてある成果指標でよいか。

また、58 ページ、「2050 年ゼロカーボンシティ」宣言に向けた計画を策定するとある。これは重要なテーマだが、あまり議論できていなかったなので意見をいただきたい。

(委員 I)

56 ページ、外出支援タクシー登録の成果指標があるが、現在試行的に行っているものを 14 年までやるということなのか。

(町長)

町独自の制度で、今年から始めた。試行期間というのは、より良い事業にしていくために、事業の精査していく期間である。事業の効果に疑義が持たれる状況が発生しない限り、基本的には継続する。

(委員 I)

地域住民は助かっているが、タクシー会社の予約が取れないことが多すぎるのが困っているところである。

(町長)

現在、利用者にアンケートを取っているところだ。そのアンケートで、良い事業になるように検討していく。

(会長)

そういうことであれば、成果指標にあげて適当か。場合によっては、継続できないこともありえるのではないか。成果指標にあげる以上は目標年度まで事業をする前提であるが大丈夫か。

(委員 F)

コミュニティバスとデマンド交通を合わせたデマンドバスが主流だ。デマンドバスを実施すると言っていなかったか。

(町長)

選挙で掲げたデマンドタクシーは、ここであげている外出支援タクシーのことである。

(会長)

今後、デマンド交通の需要は増えてくる。地方公共交通をどうするかという記載がないので、公共交通の在り方について検討するという文言に修正できないか。

(事務局)

地域公共交通会議と、それを研究する地域公共交通の維持改善協議会が本町にある。現在、担当課で地域公共交通に関する計画を検討している状況だ。

(会長)

町として検討している以上、公共交通の在り方の見直しを含めて検討するという文言を入れてもらいたい。コミュニティバスが重要な手段だとすれば、成果指標はこれでよいと思うが、外出支援タクシーは持続性が担保されていないのであれば、成果指標からは外したほうがよいと思う。事務局には検討してもらいたい。

ゼロカーボンシティ宣言は可能なのか。目玉となる施策であるが、宣言を出せないということになると、総合計画の成果指標としては欠陥となる。令和6年度に計画策定であれば、令和6年度に宣言するということが見直しとして大丈夫か。

(町長)

町として、環境保護、地球温暖化は取り組めていないのが実態。これは町の意気込みと捉えて欲しい。それに向けてプロジェクトチームを立ち上げる予定だ。

(委員 E)

計画の体系はまとまっていると思うが、目標の達成には、各担当課の連携が必要だと思う。

(事務局)

横の連携については、重要施策はプロジェクトチームを立ち上げ進めている。災害対策プロジェクトチーム、マイナンバー推進プロジェクトチーム、女子サッカー、スポーツ推進プロジェクトチームなどを立ち上げている。町長から指示を受け、各課連携して業務を進めているので安心していただきたい。

(町長)

伝統産業の記載がないので、どこかに入れたいと思う。

(会長)

産業振興と歴史、伝統振興の二つにまたがると思うので、加えてもらいたい。

### 3. その他

- ・スケジュールに関する説明

### 4. 閉会